

妻太人之眞木流云爾布乃河事者雖通船曾不通

〔萬葉集十一古今相聞往來歌〕寄物陳思

云云物者不念妻太人乃打墨繩之直一通二

〔倭訓栞前編二十五〕ひだ中

飛驒の國の名も國體の衣のひだに似たる也山深く澗峻しくて

釣梯籠渡などの名あり後漢書に跋涉懸度といへる如し師古註に懸度は懸繩而度也と見ゆ姓氏錄に械田といふ事も見えたり

〔古事記傳十五〕豊後國郡名日高比多と和名抄に見ゆ風土記には日田とあり是によりて思へば飛驒も日高國歟

〔諸國名義考上〕飛驒

和名抄に飛彈比太國府名義は挽手人より負し名なるべし延喜民部式に飛彈匠丁とあり賦役令に凡妻陀國庸調俱免每里點匠丁十人每四丁給廩丁一人一年一替餘丁輸米充匠丁食とあり類聚三代格の承和元年の條に弘仁五年五月廿一日云々得飛驒國解備貢上下匠每年有數事畢之日規避課役云々とあり鴨祐之が大八州記に按杣者材木之名而匠工造杣木也此國多材木而其民課役皆爲匠丁故以爲國名也乎といへり萬葉集に云々物者不念妻太人乃打墨繩之直一道二また妻太人之眞木流云爾布乃河事者雖通船曾不通とあり立入信友はこの打墨繩之云々とよめるによりて挽板ヒキイタの略かりかといへりまた或書に此國風土記の文として引たるには飛驒本美濃國內也然建近江大津宮時自當國良材多出也駄負木行大津如飛也故號飛駄といへるはいにしへ字音なかりしに心つかざる妄説なり

位置

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

飛驒高山町極高三十六度八分半經度東一度三十二分從東都中山道八十四里三十